

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690200013	
法人名	株式会社 そよかぜ	
事業所名	グループホームそよかぜ	
所在地	鳴門市瀬戸町明神上本城77-2	
自己評価作成日	令和2年2月21日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	令和3年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員と入居者といった関係では無く第二の我が家、家族といったアットホームな雰囲気の中で。入居者同士が馴染みの関係で仲良く時間をともに過ごせるよう、職員に対し遠慮する事無く言いたいことが発することができ、家族様も気軽に面会に来やすく、職員とも話しやすい関係を築けるように努めている。
また心身状態の低下に伴い重度化となりつつある中でターミナルケアを要望される家族様が多いため、家族がそよかぜで看取りを選んだ事に対し後悔する事が無いよう、看護師、主治医と連携を図り、看取りを行う職員も不安や抵抗無くケアが行えるよう、研修などをしっかり行っている。また可能な限りは居室で一人安静にするのではなく、ホールで過ごして頂き孤立する事が無いよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、幹線道路から少し離れた、海に面した景観の良い場所に位置している。“みんな仲良くいきいき生活”という理念を掲げ、利用者に“我が家”だと感じてもらえるよう、アットホームな雰囲気づくりを心がけている。全職員が、利用者一人ひとりをよく観察し、心身状況の変化や思いや意向を把握することを大切にして、支援に努めている。重度化や終末期における支援も行い、個別の状況にあわせた対応ができるよう、協力医療機関や各関係機関と連携体制を整備することで、利用者や家族等の安心・安全につなげている。また、専用の炊飯器を使用して、温かく肌触りの良いウエスタオルを自前で作るなど、利用者本位の支援に向けて工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			そよかぜ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人に事業所の理念を理解しており、申し送り時にも報告、連絡、相談において共有しあう事で実践に繋げている。	事業所では、開設当初からの理念を掲げている。毎日、申し送りの際に理念を唱和したり、業務日誌に貼り付けたりして、職員間での共有化を図っている。新規職員にも理念を伝え、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や交通安全運動、イキイキ100歳体操などに参加し地域の人々と交流することに努めている。	事業所では、地域の清掃や公民館で行われる“いきいき100歳体操”に参加して、地域と交流している。感染症(コロナ等)の流行下においては、近隣を散歩した際に、地域住民と挨拶を交わすなど、地域との交流の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などにおいて地域の人々に認知症の方の本質や、あり方、支援方法などを説く上傳達している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議に取り上げた内容について色々な意見を出して頂き、職員に報告し実践するようにしている。	運営推進会議は、感染症等の流行に伴い、書面により実施している。事業所の運営状況や利用者の生活状況などについて報告し、意見を集約しているが、本年度は、1回のみ開催となっている。	制度上、運営推進会議は、年6回以上開催することが望ましい。今後は、市の担当者等と協議し、創意工夫したかたちで開催するよう努められたい。各委員より意見等を得ることで、サービスの質の向上につながる機会となることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告書などの提出や推進会議等で報告、相談する事で意見や支持などをいただいている。	管理者は、毎月の事業報告書等について、市の担当窓口へ持参している。事業所の課題や制度上の質問について、電話等で意見交換している。感染症等の対策についても、情報提供を受けるなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設が2階に位置しておりすぐに階段の為、転落の危険を伴うが日中は施錠しておらず常時出入り口付近や入居者の方の行動に注視し業務に努めている。但し人員不足気味の場合や入居者が著しく不穏状態の場合に限り施錠するときもある。	事業所では、3か月に1回、委員会を開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。定期的を実施する研修会では、体験型介護を取り入れ、職員間の意識の共有化を図っている。日中は玄関を開放し、利用者の自由な暮らしに向けて支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の定義を知ることによって防止につながると考えている為研修などを定期的に行っている。困難事例の場合、職員間で考え対応している。信頼関係が良好になる事で虐待に至らないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			そよかぜ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	不明な事は積極的に調べ職員間で情報の共有を図り理解したうえで活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際は不安や疑問などを聴取し詳細に説明し理解や了承を得た上で契約をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは積極的に交流を図る事で意見や要望を聞かせてもらえる機会を作っている。信頼関係を構築する事で様々な考えや意見を聞き取る事ができるので利用者の支援や業務運営に反映する事が出来ている。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者の意見や要望などの把握に努めている。家族からの意見は、電話等でできとっている。感染症の流行下においても、SNSなどを活用し、利用者の様子を写真や動画で家族と共有することで、意見等が出やすい雰囲気づくりに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常時介護職員と共に業務を行っている為、意見や提案を聞ける状態であるが、管理者から代表に直接話す機会も無く、統括施設長を通じてとなり、会う機会も無く現状を聞いてくれるといったことはない状況	管理者は、毎日の申し送りや担当者会議などの機会に、職員からの意見や要望等をききとっている。出された意見等は、職員間で共有化を図り、運営面に反映しているが、代表者と直接話す機会を設けるまでには至っていない。	今後は、施設内だけでなく、代表者等とも話す機会を設けることができるよう、法人内でも協議することが望まれる。事業所のより良い運営やサービスの質の向上に向けて、全職員で話しあうことに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表などである程度は把握出来ている。職員が満足し向上心を持ち働けるような職場環境になるよう尽力しているが現実的には困難な状態		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	把握していない。法人内の研修は定期的に行っているが慢性的な人員不足により外部の研修参加は出来ない現状		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	できていない。人員不足にて現入居者の日常の支援をする事でゆとりがない状態		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			そよかぜ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	馴染のない環境において孤独感からの不安に至らないよう初回のアプローチを重要し、安心して信頼関係の構築に努め、要望等を自発的に発することができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時や決定時に家族様と密に連絡を取り、気軽に相談や要望等と言えるような雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望されている事に対し、必要なサービスを提案し1階のデイサービスとの交流や外部交流なども含め支援の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような関係を築きお互いが支えあいながら孤独を感じる事無く安心して穏かな生活が送れるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会の際は本人との関係を伺いつつ家族の意見や思いも傾聴し些細な事も報告や相談しながら職員と家族で共に本人を支えているといった意識が出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会の際はゆっくりと対話が出来よう配慮している。次回も面会に来ていただけ易いような施設の雰囲気作りを心掛けている。	事業所では、家族や知人、友人からの電話取り次ぐなどして、利用者の馴染みの関係継続に向けて支援している。3か月に1回、馴染みの理髪店の来訪もある。また、本人の馴染みの場所へドライブするなど、本人本位の支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は日常生活において利用者同士の関係を把握しており、共同作業やレク時は職員も共に行い共に支えあう事で孤立しないよう留意しながら支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			そよかぜ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族に対しても精神的に落ち込まれないよう支援したり、他施設に移られた方の場合も相談などあるのでその都度対応している。退去後も時折当施設に立ち寄りしたりしており、交流が継続されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で入居者の何気ない言葉や態度を貴重な情報と捉え可能な限り実現できるように支援している。意思表示が困難な方の場合も家族からの情報や意向を聴取している。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりの思いや意向等を把握するよう、コミュニケーションを図っている。意思の表出が困難な場合は、表情や顔色から思いを汲み取り、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や面会時に聴き取りなどで多岐に渡る情報収集を行い、その方を知るよう努め、その人らしく過ごしていただけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、介護記録日々の言動行動の異変時の早期発見早期対応に努めている。また出来無いことよりもできることに重きを置いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期カンファレンスや日々の申し送り等で得た情報を元に本人、家族の意向、職員間でのケア方針を元に担当者会議以外でも家族と連絡を取り、情報の共有を徹底しプランに反映するように努めている。	事業所では、利用者や家族等の意向を踏まえた介護計画書を作成している。月1回、主治医の往診の際に、計画についての意見をききとっている。定期的な見直しのほか、本人の心身状況の変化に応じて、随時の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルで食事、水分、排泄、心身状態の記録をしている。業務日誌等で情報を共有し問題点改善点など検討し計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の心身状態により通院や買い物、近隣の散歩、ドライブ等マニュアル化すること無く柔軟に対応出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			そよかぜ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望により訪問美容師のサービスなどを利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じ往診以外も通院が必要な場合は適切に医療を受けられるよう支援している。家族の付き添いが困難な場合は職員が代行し入居者、家族を支援している。	事業所では、利用者や家族等の希望にそったかかりつけ医の受診を支援している。定期的に、協力医療機関や近隣歯科の来訪を受けたり、必要に応じて病院へ送迎したりするなど、適切な医療を受けることができるよう体制を整備している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には心身状態を報告している。検査結果や受診結果、薬の変更も詳細に伝達しており連携が図れている。体調不良の際は対応などの指示を仰ぎつつ適切な支援が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に伴うリスクを軽減する為にも家族や医師と相談し施設内で対応可能な状態で退院していただいている。また入院中は可能な限り見舞いに行き本人の状態や看護師などから状態の経過情報を得よう努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態を家族に説明し主治医と家族の話しあいの場を設けている。場合により家族の意向を伝達もしている。両者に対し施設対応としての可能、不可能を詳細に説明し理解して頂いている。	事業所では、入居時の段階で、重度化や終末期の支援について、利用者や家族等に文書で説明している。本人の心身状況の変化に応じて、家族等の意向を確認し、主治医等と連携を図りつつ、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	通常の状態観察力の向上、異変時の早期発見早期対応、急変時の初期対応が行なえるよう内部研修と救急救命の講習に参加し実践力が身につくよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、利用者と一緒に火災発生時の初期消火訓練、非難訓練を行っている。地震発生などに対する非難訓練も近いうちに行う予定	事業所では、食料や水を4日分備蓄するなどして、災害に備えている。避難場所荷移動の際の車のスペアキーを確保するなど、事前準備は行っているが、法定にそった避難訓練は実施できていない。	今後、火災を想定した避難訓練等を、年2回（日中・夜間想定）速やかに実施し、利用者の安心・安全の確保につながるよう、取り組まれたい。また、火災以外の災害（地震・浸水）など、事業所の状況に応じた災害を想定し、マニュアルの作成や防災訓練に取り組まれたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			そよかぜ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話しやすいように地元の言葉で話しかけたり自身の意思で決定しやすいような言葉かけに留意している。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援に取り組んでいる。利用者が年長者であることを踏まえて、言葉かけなどに配慮している。2か月に1回の研修の際にも、権利擁護等について話しあい、意識の共有化を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を聴取したり思いが伝えにくい方は複数の案を出して選んでいただけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、入浴などはある程度決めているが基本は本人の意思を尊重し、マイペースに過ごしていただけるよう支援し穏やかな日常を過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選別も職員とともに選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別に応じて食事の準備から後片付け等行って頂いている。食事意欲が湧くように形態、栄養バランスにも留意している。また利用者の方に何が食べたいか聞きメニューに組み込み喜ばれている。	食事は、毎食手作りのものを提供している。利用者の希望を踏まえ、お鍋やたこ焼き、ケーキ作りなど、みんなで楽しむことのできる食事を提供している。また、見た目にも楽しむことができるよう、ワンプレート式にしたり、和食器を使ったりするなど、工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分摂取量を記録し1日に必要な摂取量が把握できるようしている。本人の嗜好に合わせた食事を提供し、食事形態も本人の摂取状態に応じて柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時は嗽、食後は必ず口腔ケア実施し此処に応じたケアを行っている。月3回毎週金曜日に歯科衛生士によるブラッシングを実施、口腔トラブルの異変時の早期発見対応が図れ肺炎などの予防にも効果が発揮されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			そよかぜ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄記録によりパターンを読み取りトイレ誘導し失禁に至らないよう常時心掛けている。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄記録を作成し、排泄パターンを把握している。利用者の尊厳を損なうことのないよう、声かけの大きさやタイミングに配慮している。また、水分調整や服薬調整も行いつつ、本人にとって負担の少ない排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の対応として運動、食事、水分摂取量に留意している。それでも排泄がない場合は医師に相談の上薬剤対応とし排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度は日時を決めているが柔軟に対応はしている。拒否時は日時を変更している。入浴の際はコミュニケーションをはかることで楽しく安心して入浴できるよう支援している。	事業所では、週3回は入浴することができるよう支援している。利用者一人ひとりの希望に応じて、曜日や時間帯を変更している。月1回、御神酒を風呂に入れたり、入浴剤を入れたりして、入浴が楽しい者となるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	意思を尊重し対応している為自由に休息が取れている。また夜間に対しては不眠の方がほとんど無く安眠されている。たまに不眠気味の場合もあるが無理に就寝するようにせず本人が就寝できるまで交流を図る事で安心して良眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	把握しており服薬のリスクも把握している。副作用がないように状態観察も密に行い、効果がない場合に対しては主治医に報告し変更も行っている。変更後も体調の経過観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じての能力などを把握しており、その人が楽しく過ごせるよう、出来る事をしてもらうことで自信につながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人員不足により外出支援があまり対応できていない事と、重度化されている方に対しては外出が困難な現状。季候がよい時などは近隣の散歩などは行っている程度ですが、気分転換につながるよう可能なときに支援している。	事業所では、天気の良い日には、近隣の散歩にでかけるなど、日常的な外出支援に取り組んでいる。感染症の流行下においても、少人数での散歩やベランダで日光浴をして、外気を感じることができるようにしている。また、本人の希望に応じて、車外には出ないようにドライブするなど、本人本意に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			そよかぜ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所に預けてあるお小遣で限られた方のみであるが、買いものへ行き、職員見守りにて買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	数名の方のみ内、外言語を理解出来るので本人の要望あれば電話をかけていたが、家族よりお断りの要望があり現在は電話をかけるといったことはない。また対話ができる方は面会が頻回にあるので手紙や電話といったことがない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適度な採光や生活音などで居心地がいいのか、入居者様が居室よりホールで過ごされていることが多い。また動線上に障害物が無いよう整理整頓を行い快適に過ごせるよう配慮している。	共用空間は明るく、清潔感がある。事業所が海に面しているため、窓から景色を楽しむことができる。座席やソファの配置にも配慮するなど、利用者本位の環境づくりを心がけている。また、ベランダに季節の花を植え、利用者と一緒に育てることで、季節感を感じることができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは温かい雰囲気が出るように作品などの展示や談話できるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時は本人が愛用している物を持参していただくよう配慮している。個室でもあるため整理整頓を心がけ動線上に障害物が無いよう配慮し転倒等の事故予防に努めている。	居室には、カーテンやベッド、エアコンなどを設置し、快適な空間づくりを行っている。利用者一人ひとりの使い慣れた家具などを持ち込んでもらうことで、居心地良く過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に応じた出来る事、わかる事を把握して少しでも自立した生活が送れるように工夫しつつ事故に至らないよう配慮している。		